

将来家庭科教師になる学生の体験学習

広島大学児童保健学教室

松橋有子

■ 研究目的

将来家庭科を担当する学生自身に、幼児とのふれあい体験を経験してもらうことが目的である。

■ 研究方法

対象は、家政教育学3年生のうち家庭看護学実習を選択した平成6年度17名、平成7年度12名である。ふれあい体験は、某大学附属幼稚園において平成6年12月13日と平成7年12月2日の両日に実施された。幼稚園の方針にしたがい、9時から11時まで子どもたちが自由に遊んでいるなかに、学生が自由に入りこんで一緒に遊び、その後の年齢別のミーティングは見学するというかたちで行なわれた。ふれあい体験前と、体験後に、アンケート調査を行ない両者を比較した。

■ 研究結果

29名の学生のプロフィールは次のとおりである。

平均年齢	21歳 5ヶ月 ± 6ヶ月 女性	
同意数	1人	17 (58.6%)
	2人	7 (24.2%)
	3人	1 (3.4%)
	0人	1 (3.4%)
	不明	3 (10.4%)
	計	29 (100.0%)

出生順位	第1子	10 (34.5%)
	末子	10 (34.5%)
	中間	5 (17.2%)
	1人っ子	1 (3.4%)
	不明	3 (10.4%)
	計	29 (100.0%)
同居家族	父母および同胞	17 (58.6%)
	父母・同胞・ 祖父母	8 (27.6%)
	不明	4 (13.8%)
	計	29 (100.0%)

■ アンケート集計結果

1. 体験学習前

①今までに赤ちゃんにミルクや食物をあげたことがありますか。

何度かある	15 (51.8%)
一度もない	14 (48.2%)
計	29 (100.0%)

②今までに赤ちゃんを抱っこしたことがありますか。

何度かある	23 (79.4%)
一度もない	5 (17.2%)
たびたびある	1 (3.4%)
計	29 (100.0%)

③今までに赤ちゃんのおむつをかえたことがありますか。

一度もない	25 (86.5%)
何度かある	4 (13.8%)
計	29 (100.0%)

④今までに赤ちゃんの服を着替えさせたことがありますか。

一度もない	23 (79.4%)
何度かある	6 (20.6%)
計	29 (100.0%)

⑤今までに赤ちゃんと一緒に遊んだことがありますか。

何度かある	23 (79.4%)
一度もない	4 (13.7%)
たびたびある	2 (6.9%)
計	29 (100.0%)

⑥“赤ちゃん”についてどのようなイメージをもっていますか。

かわいい	17 (58.6%)
どんどん大きくなる	3 (10.4%)
弱い	3 (10.4%)
やかましい	3 (10.4%)
元気	2 (6.8%)
よく泣く	1 (3.4%)
計	29 (100.0%)

⑦赤ちゃんからなにを連想しますか。

お乳	10 (34.5%)
いのち	6 (20.7%)
おむつ	4 (13.8%)
小猿	4 (13.8%)
お母さん	3 (10.4%)
妹	1 (3.4%)
天使	1 (3.4%)
計	29 (100.0%)

⑧赤ちゃんを育てることについてどのように思いますか。

幸せだと思う	9 (31.0%)
すばらしいと思う	7 (24.2%)
忙しいと思う	4 (13.8%)
おもしろいと思う	3 (10.4%)
大変だと思う	2 (6.9%)
わからない	2 (6.9%)
苦しいと思う	1 (3.4%)
めんどろだと思う	1 (3.4%)
計	29 (100.0%)

⑨赤ちゃんを育てているお母さんをみてどのように思いますか。

大変そうだと思う	13 (45.0%)
自分も早く赤ちゃんが欲しい	5 (17.2%)
偉いと思う	5 (17.2%)
いきいきしている	3 (10.4%)
忙しそうだと思う	1 (3.4%)
きつそうだと思う	1 (3.4%)
自分も育てられた	1 (3.4%)
計	29 (100.0%)

⑩親戚や近所に赤ちゃんを育てている方がいますか。

ある	16 (55.0%)
ない	13 (45.0%)
計	29 (100.0%)

⑪あなたは赤ちゃんを抱っこすることについてどのように思いますか。

楽しい	9 (31.0%)
わからない	6 (20.7%)
こわい	6 (20.7%)
非常に楽しい	5 (17.2%)
泣かれたら どうしようと不安	3 (10.4%)
計	29 (100.0%)

⑫“親が子どもを育てる”ということについてどのように思いますか。

あたりまえのことだと思う	7 (24.2%)
親の責任だと思う	7 (24.2%)
すばらしいと思う	6 (20.6%)
親の当然すべきことだと思う	5 (17.2%)
ありがたいことだと思う	4 (13.8%)
計	29 (100.0%)

⑬今度行なう赤ちゃんとのふれあい体験をどのように思っていますか。

非常にたのしみ	17 (58.6%)
少したのしみ	5 (17.2%)
あまり気乗りが しない	4 (13.9%)
緊張する	1 (3.4%)
計	29 (100.0%)

⑭一般的な意味で“親”についてどのように思いますか。

ありがたい	15 (51.8%)
一緒にいると 安心感がある	9 (31.0%)
たのましい	2 (6.9%)
わずらわしい	2 (6.9%)
計	29 (100.0%)

⑮あなたは赤ちゃんが好きですか。

好き	12 (41.3%)
非常に好き	11 (37.9%)
あまり好きでない	3 (10.4%)
わからない	3 (10.4%)
計	29 (100.0%)

2. 体験学習後

⑯参加してすぐに小さい子どもに声をかけたり一緒に遊べましたか。

すぐにできた	15 (57.7%)
少し時間はかか ったができた	8 (30.8%)
なかなかできな かった	3 (11.5%)
計	26 (100.0%)

②赤ちゃんを抱っこしてどのように思いましたか。

楽しかった	16 (61.6%)
抱っこしていない	5 (19.3%)
わからない	2 (7.7%)
気持ちよい肌ざわりだと思った	1 (3.4%)
かわいい	1 (3.4%)
こわかった	1 (3.4%)
計	26 (100.0%)

③“赤ちゃん”から連想するものを2つ書いて下さい。

小さい	8 (15.4%)
かわいい	7 (13.5%)
無邪気・純真・素直	6 (11.5%)
ミルク・哺乳ビン	5 (9.6%)
おむつ・おまる	4 (7.7%)
やわらかい	4 (7.7%)
おもちゃ	2 (3.9%)
元気	2 (3.9%)
泣く	2 (3.9%)
お母さん	2 (3.9%)
さる	1 (1.9%)
天使	1 (1.9%)
小さな人間	1 (1.9%)
クレヨン	1 (1.9%)
体温	1 (1.9%)
夢	1 (1.9%)
笑顔	1 (1.9%)
よく寝る	1 (1.9%)
持続性がない	1 (1.9%)
難しい	1 (1.9%)
計	52 (100.0%)

④赤ちゃんを育てることについてどのように思うようになりましたか。

すばらしいと思う	8 (30.8%)
楽しいと思う	7 (26.9%)
忙しいと思う	5 (19.3%)
おもしろいと思う	3 (11.5%)
幸せだと思う	2 (7.7%)
大変だと思う	1 (3.8%)
計	26 (100.0%)

⑤“親が子どもを育てる”ということについてどのように思うようになりましたか。

すばらしいことだと思う	9 (34.6%)
親の責任だと思う	5 (19.3%)
ありがたいことだと思う	4 (15.4%)
あたりまえのことだと思う	3 (11.5%)
わからない	3 (11.5%)
大変なことだと思う	2 (7.7%)
計	26 (100.0%)

⑥これからも赤ちゃんや小さい子どもの世話をしたり、一緒に遊んだりしたいと思いますか。

そう思う	13 (50.0%)
機会があればそうしたい	11 (42.3%)
あまり思わない	2 (7.7%)
計	26 (100.0%)

⑦今回の体験学習に参加して、学校の家庭科や保健体育で学んだ赤ちゃんや子どもについての知識は役に立ちましたか。

あまり役にたたなかった	9 (34.6%)
少し役にたった	8 (30.8%)
わからない	8 (30.8%)
計	26 (100.0%)

⑧次回もこうした“体験学習”に参加してみたいと思いますか。

はい	25 (96.2%)
わからない	1 (3.8%)
計	26 (100.0%)

3. 体験学習についての感想

(a) 体験してよかったと思う 26 (100.0%)

理由

- * 普通の生活をしていたらこんなにたくさんの子供と遊ぶ機会がないから…………… 8
- * 今まで不安だったが、幼児への接し方が分かった…………… 7
- * 子どもの純粋さを感じやさしい心になった 5
- * 子どもの世界を共感できた…………… 2
- * 早く子どもを産み育てたいと思った…………… 1
- * 机上での講義はうけているが、実際の子どもをみることで幼児に対するイメージがはっきりしてきた…………… 1

(b) 体験学習は楽しかった 24 (92.3%)
 どちらでもない 2 (7.7%)

理由

- * 一緒に遊んで童心に帰った……………16
- * いろいろな個性をもった子どもがいることを知ることができた…………… 6
- * 子どもの成長ぶりに驚いた…………… 4
- * 子どもの純粋さを改めて感じ、子どもパワーに驚いた…………… 3
- * 子どもに対する私の見方が少し変わるような気がした…………… 3
- * もっともっと子どもと過ごしたい…………… 2
- * 今まで子どもが苦手だったのはやはり接す

- れたら子どもがすごく好きになった…………… 1
- *子どもの自由な発想が宇宙人と遭遇したよ
うな気になった…………… 1
- *子どもの柔軟な考え方、独創的で想像力豊
かな面をみれて楽しかった…………… 1
- *自分も一緒に楽しめるよう子どもたちも気
を使ってくれた…………… 1
- *家政教育を専攻する者として貴重な体験だ
と思うので続けて欲しい…………… 1
- *子どもは遊びをとおしているいろいろのことを
学んでいることがわかったし、子どもは自由
に遊ぶことがとても大切だと思った…… 1

■ 考 察

今回の研究の対象である221名の高校生と29名の大学生についてみると、家族に幼児がいたのは高校生1名だけであった。同胞数の少ない核家族で生活していれば、赤ちゃんを抱っこしたり遊んだりしたことは何度かあっても(高校生:60.2%、大学生:79.4%)、おむつをかえたり、服を着替えさせたりというように実際に世話をした経験がないのは当然の結果であると考えられる(それぞれ高校生:70.0%、大学生:86.2%、高校生:65.0%、大学生:79.4%)。両者を比較すると、大学生の方に一度も世話をしたことがない者が多く興味深かった。赤ちゃんを抱っこしたことが一度もないと答えた大学生は約17%であったにもかかわらず、“あなたは赤ちゃんを抱っこすることについてどのように思いますか”という質問に対して、こわい・わからないといった不安にもとずくと考えられる回答をした者は約41%であった。それがふれあい体験学習後には、抱っこしていないと答えた5名を除外すれば、約8%に減少して、不安を抱く者が減ったことを表していた。また“親が子どもを育てる”ということについて、体験前には、約48%の高校生と約66%の大学生が、親の責任で当然すべきことだと思いと答えていたのが、体験後にはそれぞれ約41%、約31%に減少していた。反対に、すばらしいことありがたいことだと思いと回答した者は、高校生では33%から51%に増加し、大学生では34%から50%に増加していた。これは実際に子どもたちにふれて、今まで当然と考えていた親が子どもを育てるという行為に対して、すばらしい・ありがたいことだと再認識したとは考えられないであろうか。“赤ちゃんを育てることについてどのように思いますか”という質問に対して、忙しい・大変だ・苦しいとマイナスイメージを抱いていた者が、高校生

42%、大学生28%であったのが、体験後にはそれぞれ37%、23%とやや減少する傾向がみられた。体験前には赤ちゃんを育てることについて幸せ・すばらしい・おもしろいと思うと答えた者は、高校生35%、大学生66%であったのが、体験後は、高校生53%、大学生77%に増加した。そして何よりも重要なことは、体験前には子どもを育てることは楽しいと思う者がいなかったのに対し、体験後には“楽しい”と思うと答えた大学生が27%出現したことである。以上の結果だけからでも、ふれあい体験学習の成果はあったと述べてよいと考える。参加したほとんどの大学生が、これからも赤ちゃんや小さい子どもの世話をしたり一緒に遊んだりしたいし、次回もこうした体験学習に参加してみたいと回答した。また全員が、今回の体験学習を体験してよかったと答えた。そしてその理由として、普通の生活をしていたらこんなにたくさん子どもと遊ぶ機会はないからというものがもっとも多かった。その他には、今まで不安だったが幼児への接し方が分かったし子どもに対する苦手意識がなくなった、子どもの純粋さを感じやさしい心になった、子どもの世界を共感できた、子どもの存在が身近になった、机上の講義では分からないことが実際の子どもをみることではっきりしてきた、というものがあつた。

これらのことから、実際に体験し経験することがどんなに重要であるかということ、学生達も理解できたと考える。また、ほとんどの学生が体験学習を楽しむことができ、その理由としてもっとも多かったのは一緒に遊んで童心に帰ったという回答であった。子どもと遊ぶことは楽しいことであるということ、理解できたと考えられる。その他に、いろいろの個性をもった子どもがいることが分かった、子どもの成長ぶり・純粋さ・パワーに驚いた、宇宙人と遭遇したような気になった、子どもは遊びをとおしているいろいろのことを学んでいることが分かった、子どもは自由に遊ぶことがとても大切だと再認識した、接することに慣れたら子どもが好きになった、家政教育を専攻する者にとって貴重な体験だと思つたので続けて欲しい、というものがあつた。

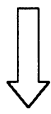
■ まとめ

実際に子どもと接することによって、子どもに対する苦手意識がなくなり、子どもと遊ぶ楽しさを理解できたと考えられる。幼児と遊び、幼い子どもたちから年長者として頼られていくなかで、自

分より弱い者へのいたわりの心や生命を尊ぶ心が 生まれてくると考える。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



まとめ

実際に子どもと接することによって、子どもに対する苦手意識がなくなり、子どもと遊ぶ楽しさを理解できたと考えられる。幼児と遊び、幼い子どもたちから年長者として頼られていくなかで、自分より弱い者へのいたわりの心や生命を尊ぶ心が生まれてくると考える。